

1. 評価結果概要表

作成日 21 年 12 月 14 日

【評価実施概要】

事業所番号	189070014
法人名	ケアバンク株式会社
事業所名	グループホームさくら園
所在地	鯖江市糺町14-6 (電話) 0778-51-1711

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	平成21年9月10日	評価確定日	平成21年12月14日

【情報提供票より】 (21 年 8 月 26 日 事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 18 年 9 月 20 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 17 人、非常勤 2 人、常勤換算 17.8 人	

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2 階建ての 1 ~ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	68,500 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有 (円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,000 円	

(4)利用者の概要

利用者数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	9	要介護2	4		
要介護3	4	要介護4	1		
要介護5	0	要支援2			
年齢	平均 83.5 歳	最低	69 歳	最高	103 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	馬場医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>当ホームは、新興住宅地と田園に囲まれた静かな環境の中にある。福井鉄道の神明駅に近く幹線道路が縦横にあり交通の便が良く、周辺には商業ゾーンもある。</p> <p>ホームは2階建てで各階に1ユニットの計2ユニットがあり、居室・共用空間とも同じ構造になっている。各ユニット間は、エレベーターと階段を利用し自由に行き来できる。また、窓からは周囲の田園風景が一望でき、開放的な構造になっている。この他、広い菜園があり、収穫した新鮮な野菜をふんだんに使った色彩豊かな食事は入居者の心身を豊かにしている。</p> <p>ホームは、本人と家族のよりよい関係づくりを大切にしており、面会時の声かけ・家族向けの近況報告・行事への参加の呼びかけを積極的に行っている。また、地域住民に親しみをもってもらえるよう、民生委員等にホームの活動を紹介し地域に開かれた施設づくりに取り組んでいる。</p>
--

【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価で指摘のあった「地域との付き合い」については地域住民と良好な関係ができてきており、「運営推進会議の充実」についてもホームの課題について委員で話し合い解決に当たると、改善に向けて取り組んでいる。一部改善できていない項目についても、今後引き続き改善に取り組まれることを期待したい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者と職員は自己評価の意義を理解しており、日ごろのケアの気づきや問題点を管理者を中心に職員会議等で話し合い、具体的な改善に取り組むサービス向上に努めている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)</p> <p>運営推進会議には、包括支援センター職員・地域住民代表・民生委員・家族代表・職員が参加し、ホームの運営・利用状況の報告、行事案内、地域の行事への参加計画等の情報交換を行っている。また、議題の内容によっては市の担当職員も加わり、懸案課題の調整や解決に当たっている。会議は、地域とホームの情報交換の機会として有効に活用されている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)</p> <p>家族には面会・通院送迎時・行事参加等の機会に入居者の状況を報告するとともに意見や要望を聞くようになっている。要望や意見に対しては、現状を説明し業務日誌に記録するとともに、職員間で話し合い、早期解決に努めるようになっている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホーム周辺には住宅が少ないが、入居者と職員は散歩の時など地域住民に顔を合わす時には挨拶を心がけている。また、地域の防災訓練や祭りなどに参加するとともに、ホームの行事である納涼祭にはボランティアの参加が増えてきており、地域との交流が活発になってきている。</p>

2. 評価結果（詳細）

 は、重点項目。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		理念に基づく運営 1 理念の共有			
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域との関わりを重視して、入居者の人権を尊重する」というホーム独自の理念を作り上げており、玄関や共有空間に掲示している。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の勤務交替時や毎月開かれる職員会議で理念を唱和し、理念の共有と実践意識の高揚に取り組んでいる。 また、毎月、理念に基づいた実践目標を作成し、これに沿ったケアに取り組んでいる。		
		2 地域との支えあい			
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	入居者と職員は、散歩の際など地域住民と顔をあわす時には挨拶を心がけ、地域の防災訓練や祭りにも参加している。また、ホームの行事である納涼祭には、家族を中心に地域ボランティアの参加が増えてきており、地域との交流が活発になってきている。 この他、地域に開かれた施設を目指し、地域住民代表や民生委員にホームの活動を紹介している。		
		3 理念を実践するための制度の理解と活用			
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が自己評価の意義を理解し、全職員で話し合い作成している。 外部評価の結果は玄関に掲示し、いつでも誰でも閲覧できるようにしている。また、職員会議等で自己評価とは違った視点を参考にしながら、改善に取り組んでいる。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、包括支援センター職員・地域住民代表・民生委員・家族代表・職員が参加し、ホームの運営・利用状況の報告、行事案内、地域の行事への参加計画等の情報交換を行っている。 会議は、地域とホームの情報交換の機会として有効に活用されている。		
	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは、運営面での問題点や分からないことを電話や訪問して相談し助言をもらっている。また、ホームの状況も随時報告している。		
		4 理念を実践するための体制			
	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に入居者の日ごろの状況を細かく説明している。また、毎月入居者の生活を写真入りで紹介する「さくらだより」を作成し、連絡事項や個別メッセージを添え、家族に送付している。		
	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や電話で意見や要望を聞くようにしている。家族からの意見や要望等は業務日誌に記録し、管理者・職員間で共有している。また、職員会議で話し合い、早期解決に努めている。この他、玄関に意見箱を設置し、自由に投函できるようにしている。		家族同士が自由に意見交換できる機会として、家族会の立ち上げを支援する取り組みも期待したい。
	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動時には、事前に入居者や家族に説明を行い、新しい職員が入居者と馴染めるまで(概ね3ヶ月程度)、他の職員がサポートしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		5 人材の育成と支援			
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所運営規程に職員研修項目を定め、研修の機会を設けている。管理者は職員の資質向上のため、研修の必要性を認識しており、認知症研修等に経験年数を考慮して参加させている。また、研修に参加した職員は、職員会議などで報告し、情報の共有を図っている。		職員の経験に合わせて研修が計画的に参加できるような、職員一人ひとりの研修計画を作成されるよう期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に加入し、同業者と交流する機会をもっている。同協会が企画する職員交換研修に参加し、相互訪問等の活動を通じ、日ごろのサービスを振り返り、サービスの向上に努めている。		
		安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族が不安にならないよう説明し、納得の上で利用を開始できるように配慮している。特に入居時には、本人・家族に見学してもらい、雰囲気を体感してもらうようにしている。また、入居後も家族にこまめに足を運んでもらい、環境に馴染んでもらうようにしている。		
		2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と職員は、菜園の世話や収穫野菜の処理を和気あいあいと行っている。職員は入居者が人生の先輩であるという尊敬の思いを共有しており、入居者への声かけにも配慮している様子がうかがえた。		
		その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1 一人ひとりの把握			
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	和やかな雰囲気の中で職員は入居者に気軽に話しかけ、その日の体調や気分・表情等から入居者の思いを汲み取っている。うまく言葉を発することができない入居者の思いや意向は、筆談で把握しており、職員は本人の思いを尊重するよう心がけている。		
		2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者とその人らしく過ごせるよう、職員は日頃から個別支援の取り組みとして、入居者一人ひとりの会話や生活パターン等から把握した事柄を大小にかかわらず書き出し、全職員で問題点を整理し、介護計画に反映している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は毎月1回見直している。突発的な変化があれば期間内であっても随時見直している。		
		3 多機能性を活かした柔軟な支援			
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホーム運営の経験を活かし、短期入所や通所介護のサービスも行っていきたいと考えている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望があればかかりつけ医の受診を継続し、希望がない場合は協力医での受診をお願いしている。受診に際しては家族が同行しているが、バイタル情報を提供している。投薬等、療養上の情報は家族から聞き、特異なケースや不明確な点は管理者が直接医療機関に問い合わせている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化や終末期についての意向を確認し、緊急搬送先と連絡網を聞き取り記録している。重度化や終末期についての職員間での話し合いは行っているが、ホームとしての明確な指針は無い。		重度化や終末期にホームとして対応できることを職員間で話し合い、ホームとしての対応指針を明確にされることを期待したい。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、入居者の誇りやプライバシーを損なう言葉遣いや大声は慎むよう徹底している。記録等の保存・管理についても慎重に取り扱っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課にとらわれず、本人の希望に沿って菜園作業や草とり等、入居者一人ひとりのペースでゆったりと過ごせるよう支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食前に全員で歌をうたい、職員も入居者の中に入り一緒に和やかに食事をしている。お茶を注いでまわる入居者もいて、食事を楽しんでいる様子がうかがえた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	風呂は毎日午後に沸かし、週2～3回本人の希望で入ることができ。また、シャワーは随時使えるようになっている。入浴を拒む入居者については無理強いせず、職員が言葉かけなどをし入浴支援を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりの個性を重視し、無理強いのないゆったりした支援がなされている。菜園の世話・草取り・浴衣の着付け・雑学の披露など職員は個々の特技や個性を引き出し、入居者の生きがいをもった楽しい生活を支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	菜園作業や買い物に出かけたり、気分が不安定な時は近隣を散歩するなど、効果的な外出支援がなされている。地域住民の協力により、職員の同行のない無断外出があった際には連絡をもらっている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者と職員は、鍵をかけることの弊害を理解しており、今年の7月から玄関をできる限り開放し、自由に出入りできるようにしている。外出しようとする入居者には職員が声かけし、職員と散歩に出かけて気分転換を図っている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署指導の下、消防計画を作成し、年2回消防避難訓練を実施している。また、地域の総合防災訓練にも参加し、火災発生時には地域自警団の協力が得られるようになっている。		災害時を想定した食料や飲料水等の備蓄についても期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員も入居者と一緒に会食しながら、一人ひとりの栄養・水分摂取状況を把握し、嗜好の聞き取りを行っている。菜園で収穫した新鮮な野菜を活用し、色彩豊かな献立を立てている。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然光に加え随所に照明器具を配置して壁面等の色彩も明るい。特に食堂部分は照明器具に障子風格子が取り付けられており家庭的な落ち着いた雰囲気となっている。大きな窓からは四方に広がる田園風景が一望でき季節感があり、居心地良い空間になっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には馴染みの家具や小物が持ち込まれ、個性のある居室となっている。消防署の指導により個人持ち込みの敷物で防煙規格でないものは、防煙規格品に取り替えてもらい安全に過ごしている。		

自己評価票

は、外部評価との共通項目。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営				
1 理念の共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域との関わりを重視して、入居者の人権を尊重する」というホーム独自の理念をつくりあげている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は目に付きやすい玄関や共有スペースに掲示。職員は毎朝の引継ぎ時と、月1回の職員会議で理念を唱和し、意識付けを図っている。理念の中から各階毎に月目標を決めて、理念の実践に向けての取り組みを始めたが継続できていない。		各階毎に月目標を決めての、理念の実践に向けての取り組みを継続していく。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	玄関やリビングに園の理念を掲示しているが、家族や地域の人々の理解はまだまだだと思われる。		
2 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	人家が離れており、日常的な交流は少ないが、顔をあわせる機会には挨拶を心がけている。入居者が無断で外出してしまったり、近所の人から園に足を運んで知らせにきて下さったり、電話で知らせて下さったり、徐々にはあるが地域の人との関係ができてきていると感じている。		今後も継続して、関係を深めていきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の夏祭りや文化祭、総合防災訓練などに参加して交流を図っている。また、地域の神社の清掃活動にも地域の一員として毎月参加している。地域の人からの声があり、納涼祭には地域の子どもの太鼓とカラオケ、踊りの慰問があり、入居者、家族、職員皆で交流を楽しむことができた。		今後も継続していく。
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	行っていない。		検討していく。
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	責任者を中心に他職員の意見を聞きながら自己評価を行ったが、全職員の評価の意義の理解はまだまだ不十分と思える。		勉強会で少しずつ項目を取り上げていき、全職員の評価の理解を深め、具体的な改善策に取り組んでいきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域での行事や清掃活動など助言や情報をもらい、活動や取り組みへと結びついている。無断外出時の目印の助言は、早速2名の入居者に取り入れた。又利用料金の滞納者に関しては、保証人の見直しの助言をもらっている。ボランティアの紹介や声があり、慰問へと結びついている。		誓約書の保証人を検討していきたい。今後も会議の意見を参考に、見直しやサービス向上に活かしていきたい。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営にあたりわからないことなど、電話や訪問で助言をもらっている。また、事故が生じた時は報告している。自宅への退居の時には、家庭状況や身体状況などを伝え、退居後の安全な生活が確保できるよう相談している。		今後も市町担当との関係を密に、サービスの質の向上に努めたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度の利用は2名。管理者は過去に制度について研修に参加しているが、職員の制度についての理解は、学ぶ機会もなくまだまだ不十分。		制度について学ぶ機会を検討していきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は高齢者虐待防止関連法についての講習会に参加している。カフェインでの具体的な取り組みの話し合いでは、虐待につながらないか、言葉の暴力ではないか、管理者、職員は気をつけている。		今後も継続していく。
4 理念を实践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時では、金銭面での不安があったが、十分な説明を行い、よく検討して頂いて慎重に結んだことがある。解約に関しては家族の申し入れで行っている。		今後も慎重に行い、理解と納得を図っていきたい。
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者本人が直接言ってくれた時はもちろん、日々の生活の中で得られた苦情など気になっていることなどは、管理者に報告し、速やかな対応策に努めている。また、介護相談員派遣を導入しており、相談員が得た情報を勉強会で職員に伝え、改善策の検討や、思いの共感に努めている。		今後も継続し、意見の吸い上げに努めたい。
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回園からの便り(さくらだより)を、個別に送り、園での様子や健康状態などをお知らせしている。また、面会時に日々の様子をこまめに伝えている。金銭管理については請求の時に報告している。職員の移動については、これまで一人の移動があったが特に報告していない。		今後も継続していく。
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、苦情相談窓口の説明と掲示をしている。昨年の評価後より、家族一人ひとりとの面談を行った。苦情や家族の思いを勉強会や職員会議で取り上げ、改善策を話し合っている。また日々の面会時には家族との話し合いを設け、意見の吸い上げに努めている。		今後も意見の吸い上げに努めたい。家族会も検討していきたい。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や個別に面談を設け意見を聞く機会を設けている。		今後も継続していく。
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	朝早い通院の介助など、時間帯を調整して要望に応じている。		できる限り要望には柔軟に対応していきたい。
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が定着してきている。1名の職員の移動があったが、利用者への説明を行った。		職員採用時の十分な見極めを行っていく。面会を

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容、実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員は2~3か月かけて先輩職員から業務、個別ケアを学べるようにしている。外部研修では介護技向上研修や認知症研修など、経験に応じ業務ととしての参加を図っている。職員会議で研修報告を行い、情報の共有を図っている。		今後も継続し、経験年数を経た職員には認知症実践者研修の参加と介護福祉士の資格取得にも力をいれていきたい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会の相互研修に参加し、他ホームへの実習、当園での実習受け入れを行った。		今後も継続していきたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	慰安旅行、親睦会、OJTなどを通して、ストレス軽減に努めている。		今後も継続していく。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の業務評価、自己申告書などを記入し、目標や希望など個別に聞く機会を設けた。		今後も継続していく。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居の相談時、可能な限り本人と一緒にまずは見学をお願いしている。気がかりなことなどや困っていることなどを十分に聴く姿勢に心がけている。そのことを職員が共有できるよう、入居時に情報として伝えている。		今後も継続して、環境が変わることの不安を少しでもなくせるよう関わっていきたい。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前には家族との面談を行い、園内の見学をしてもらい、これからの生活に対する要望や不安などを聴くことに努めている。家族が困っていることや不安に対しては解決できるよう対応を職員で話し合い、求めていることは計画に盛り込むなど、対応に努めている。また日を追って、その後の状況を伝えている		今後も継続して、家族の思いを聴きだし、受け止め応えていきたい。
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャーやリハビリワーカーと連絡をとり合い、入居可能な確認をしている。他サービス利用となったケースは今のところない。		今後も継続していく。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にはできる限り本人と一緒に見学をもらい、園の生活ぶりを直接見て頂いている。リビングで他の入居者と一緒にお話したりくつろいでもらい、場の雰囲気を味わってもらっている。また家族には、入居後しばらくはこまめに足を運んでもらい一緒に見守りしていくことで、新しい環境に慣れて頂けるようにしている		今後も継続していく。
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理や野菜づくり、土地の言葉や仕草など、入居者から学ぶことが多い。日々生活を共にすることで、喜怒哀楽を共に感じている。		尊重の気持ちと学ぶ姿勢を再認識していく。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人にとってよりよい方法を一緒に考えていきたいと思いますと、支援内容や対応のことで相談に努めている。また、納涼祭は年に1度の家族と共に成し遂げる行事として呼びかけ、行っている。		今後も継続していく。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会の声かけと快い受け入れ、毎月の便りでの近況報告、行事への参加の呼びかけなどを行って、これまでの関係を大事にしている。		今後も継続していく。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親しい友人、馴染みの人の面会を快く受け入れ、面会の継続や行事への参加を声かけしている。		今後も継続していく。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	掃除や調理、その他いろいろな活動への参加を声かけして、利用者同士が関わり合い孤立しないように努めている。また、認知の進行にも影響したことがあるので、利用者同士の合う合わないの波長にも気をつけている。		今後も継続していく。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後も園のことをきにかけて足を運んで下さる家族があられ、命日にはお参りに訪問させてもらうなど関係を大事にしている。		関係を断ち切らない付き合いを大切にしていきたい。
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		1 一人ひとりの把握		
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の面談や日々の生活の中で本人の意向の把握に努めている。行きたかった所など思いを聞き出し、職員全員でその情報を共有し、個別支援の取り組みを行っている。		今後も継続していく。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の本人、家族との面談やケアマネージャーからの情報収集に努めている。		今後も継続していく。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居前の関係者からの情報を参考に、入居後はアセスメントをもとにケアプランを繰り返し、今の状態を総合的に把握するようにしている。		今後も継続し、有する力を大事にしていきたい。
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の思い、主治医や関係者からの意見、担当者のアセスメントをもとに計画作成を行っている。内容については家族に説明し、同意を得ている。本人への具体的な説明は行っていない。		計画内容の本人への説明と同意については検討していく。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	支援内容については毎日のチェック、月1回と状態変化時のカンファレンス、状態変化時と期間毎に計画の見直しを行っている。対応が困難になってきた時や支援内容が大きく変わる時などは、家族に相談しながら行っている。		今後も継続していく。
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録やケアの実践と結果を個別に記録している。気づきや新たな記録が充分でなく、情報がうまく共有できていないところがある。		気づきや新たな情報を個別記録と業務日誌に記録して、情報の共有を図っていく。
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現在は行っていない。		今後はショートステイ、デイを検討していく。
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	入居者が無断で外出した時は、警察の協力をもらっている。歌や踊りの好きな入居者が多く、音楽療法のボランティアや納涼祭にはカラオケ、盆踊りに来てもらっている。		今後も地域資源との協働を図っていきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	以前は他町での食事会(サロン)の利用者がおられたが、認知の進行に伴い利用が困難となり中止。以後他サービス利用はない。		必要性に応じて検討していく。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	行っていない。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医を継続して頂き、日々の健康チェック表のコピーを参考にできるようお渡ししている。職員が通院の介助をする場合は、状況を伝えている。		今後も継続していく。
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医の受信が必要な方には、家族の同意を得て診察の支援を行っている。また認知症専門医の通院には、必ず職員が同行し状況に応じて、相談、助言を得ている。		今後も継続していく。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	園での通院の際には、状況に応じて看護職に相談することができている。		今後も継続していく。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した時は、情報としてフェイスシートを提出したり、職員がこれまでの状況を説明したりしている。退院においてはカンファレンスに参加、情報を得るなど連携を図っている。		今後も継続していく。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>昨年評価を終えて、早速一人ひとり家族との面談を設け、今後のあり方について話し合いを行った。急変時の搬送病院、重度化した場合の方向性などを確認し、内容については確認書を個人記録にいれて職員全員が共有している。かかりつけ医との話し合いまでには至っていない。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>これまでに看取りをした入居者はいないし、現在も終末期の方はいないが、高齢で最後まで園での生活を望む入居者に関しては、今後に備えて駆けつけてくれる医師を確認した。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>入院となることが多い。7月に自宅への退居があり、市(鯖江、越前)、家族とのケース会議を行ない、本人の安全な生活を話し合い、確認し合った。さらにその後はケアマネジャーに必要な情報を伝えている。</p>		<p>今後も予想できることをふまえ、住み替えのによるダメージを防いでいきたい。</p>
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>		<p>1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重</p>		
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>羞恥心への配慮は必ずドアを閉める、大きさに声を出さないなど、注意、配慮を心がけている。個人の記録は目にふれないところで管理しているが、日々の記録が時々目に付くところに置かれていることがある。</p>		<p>意識を高め、徹底していきたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>その日の洋服、食べ物、飲み物、活動などあらゆる場面において、入居者が選んだり、決めたりできるように取り組んでいる。</p>		<p>今後も継続していく。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>野菜や花の手入れ、散歩がしたい、居家で横になりたい、今日お風呂はよいい・・・などできる限り一人ひとりの思いやペースを大切にす対応に心がけている。</p>		<p>今後も継続していく。</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>希望の美容院でのパーマ、毛染めや好みの洋服や下着が買えるよう一緒に出かけたりしている。また地域の美容師に来院してもらいカットしている入居者には、好みの髪型でもらっている。</p>		<p>今後も継続していく。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>野菜の収穫や調理の下準備など好みや力をみて、包丁で切る、混ぜる、並べる、よそうなどの準備から下膳、茶碗洗い、お盆やテーブル拭きなど後片付けまでの作業を、可能な限り一緒にできるよう取り組んでいる。一人ひとりが作った餃子やハンバーグは、楽しみな食事につながっている。</p>		<p>好みや力が活かし、今後も継続していく。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>飲み物はコーヒー、ココア、ジュースなど好みのもので、またおやつも和菓子、果物、カステラ・入居者の好みを意識して買うようにしている。タバコは職員の管理のもと、吸ってもらっている。晩酌を楽しみたい方には毎日夕食時に好みの缶ビールをお出ししている。</p>		<p>今後も継続していく。</p>

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	オムツ使用の人もトイレでの排泄に取り組み、可能な限りオムツから紙パンツ、尿パッドへ、また日中だけでも布パンツへと取り組んでいる。一人ひとりの力に応じて声かけ、見守り、手助けなどそれぞれの対応を行っている。		今後も継続していく。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	おおまかな予定は決めてはいるが、通院や外泊、体調、希望に応じての対応をはかっている。		利用者本位を大事に
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼食後の午睡の習慣、入眠前の読書、暑い寒い好みや夜間の豆電気の使用やドアの開閉など、一人ひとりの習慣の取り入れに努めている。		今後も継続していく。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職歴や趣味、好きなこと、習慣としていたことなど生活歴の情報を収集し、食事作り、アクリルたわしや椅子の足カバー作り、メニュー書き、芝生の草取り、お経や食後の感謝の挨拶など、役割や気張らしになるよう取り入れている。		今後も継続していく。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができない入居者が多く、必要な人は園で管理している。可能な人にはドライブや通院など、機会があれば使ってもらっている。		今後も継続していく。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩、ドライブなど可能な限り取り組んではいるが、買い物がある時や、必要性のある入居者に行っていることが多く、一人ひとりのその日の希望にそってにはなっていない。		希望にそっての外出支援に努めていく。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人の思いやこれまでの習慣を把握して、今年は一人ひとり個別に出かける取り組みを行っている。お不動さん参り、寺参り、施設への兄の面会…それぞれ家族の了解を得、家族と一緒に活動されたものもある。		個別に取り組んだことが(お参りなど)今後も継続できるよう図っていききたい。また更に第二段の希望が出ていることもあり、今後も継続して取り組んでいきたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	設置の電話を自らかける利用者は今のところいない。要望があった時は電話ができるよう支援している。またはがきの購入やポスト投函を支援している。遠方の兄弟に近況をお知らせできるように手紙の支援をしている。		今後も継続していく。こ
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会者を快く受け入れ、居室やリビングなど自由に面会して頂いている。		今後も継続していく。

項目番号	項目		印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が禁止となる具体的な行為を正しく理解しているかは不十分と思われるが、勉強会やカフェインなどで身体や言葉の拘束については随時話し合い、認識合っている。		今後も継続して、認識を高めていきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	できる限り玄関の鍵、2回のアコーディオンカーテンは開けるようにしている。入居者に関わりができるよう記録の時間を見直した。可能な限り一緒に歩いたり、花の水やりや手入れを気分転換に声かけするなどの取り組みがみられ、職員の意識も徐々にではあるが高まってきている。		今後も継続していく。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	業務にあたっては各自が常々所在の確認を行っている。日勤では、今さんはですと職員が声に出して確認合っている。また日勤から夜勤、夜勤から日勤への申し送り後も注意の必要な人の所在を確認し合って業務に入るようにしている。		今後も継続して、安全の確認に努めたい。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	現在は注意の必要な物品を所持している入居者はいない。できる限り持ち物は居室に置くようにしている。		家族と相談しながら対応していきたい。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態や行動を振り返り、予想されること、これまでにあったことを踏まえ、個々の防止策、改善策を勉強会で話し合い、確認合っている。ヒヤリハットの利用、市への事故報告、火災に関しては年2回の避難訓練の実施、毎日の防火点検を行い、意識向上、火災防止に取り組んでいる		今後も継続していく。
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時に備えて全職員が、普通救命講習を受講、修了証を得ている。		今後も継続していくこと、ケガや火傷などの応急手当も取り入れていきたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を全職員で、夜間と昼想定で行っている。1回は消防署立会いで行い、合わせて消火訓練も行っている。火災発生時には、地域の自警団の協力が得られるようになっている。昨年の評価で指摘を受けた食料や飲料水の備蓄は、まだ行っていない。		災害に備えた食料や飲料水の備蓄の検討。避難訓練の時には、地域住民にも訓練のあることを声かけていきたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	過去に転倒のあるリスクの高い入居者については、家族に日々の状況を伝え、理解とその対応の同意を得るようにしている。		計画書の内容について同意を得る時に、他の入居者も起こり得るリスクについての説明をしていきたい。
の				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタル測定と職員は表情や動作など日々の観察に注意を払い、異変を発見した時は速やかに管理者やフロアリーダーに報告、申し送りで情報を共有している。急を要する時には必要に応じて家族へ連絡、受診を行っている。		今後も継続していく。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員で薬は管理しているが、効能効果の理解は不十分。新人職員がいる時は、薬の袋に目的や用量などを書き込み、薬に対する理解を深めている。		薬の袋に効能や目的を書き込み、薬に対する感心と理解を高めたい。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便を促す食品(バナナや根菜)の摂取に努め、状態をみて棒寒天を味噌汁に入れる取り組みを行っている。また毎ラジオ体操や歩行訓練、適度な運動の取り組みを行っている。		今後も継続していく。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯みがきは手渡し、声かけ、義歯はずし・など状態に応じて支援している。また就寝前のボリデントでの洗浄も週1回行っている。家族の要望にて、午前、午後のおやつ後の歯みがきを行っている入居者もいる。		今後も継続し、口腔の清潔に努めたい。
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	緑黄色野菜を多めに摂取できるように献立を考えている。午前、午後、入浴後の水分補給及び食事では汁物の取り入れに注意している。入居者の口腔状態や体調に応じて刻みやおかゆを取り入れている。		今後も継続していく。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	調理前の手指の洗浄、外から帰った時やおやつ、食事前の手洗いとアルコール消毒、便座やドアノブ、椅子、スリッパ、車いすなどのアルコール消毒をこまめに行っている。布団の天日干し、血液などの分泌物を触る時の手袋着用、爪の清潔などに気をつけている。		流行していない時期は気がゆるみがちとなるので、継続して徹底していきたい。台所に入る前、食事前の手洗いと消毒は特に徹底していく。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具は使用のたびごとに高温洗浄機にかけて清潔に心がけている。こまめに買い物を行い、冷蔵庫内の整頓に気をつけている。		今後も継続していく。
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関横にベンチを置き、花壇やプランターに花を植えて玄関周りをきれいに明るくした。		これからも工夫していきたい。
81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ブラインドに加え、今年はゴーヤでのグリーンカーテンを試み、強い光を遮る工夫を行った。ゴーヤのカーテンで涼しげな空間が楽しめている。リビングには季節感ある手作りカレンダーや風鈴、四季折々の花、観葉植物などで季節感を採り入れている。		継続しながら、更に工夫していきたい。
82	共有空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関には椅子や長いすの設置、2階廊下には椅子とテーブルが置かれ、ちょっとした空間となっており、入居者が一人でタバコを楽しまれたり、あるいは何人かでおしゃべりを楽しまれたりしてくつろいでいる。1階の和室もくつろぎの間として利用されている。		長い廊下に椅子などを置いて、休憩の場を検討していきたい。
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた馴染みのある家具や装飾品を呼びかけてはいるが、まだまだ殺風景な居室がみられる。居室壁を作品や写真で飾った。また、園でなった季節の花や野菜、風鈴などで季節感を味合えるように工夫した居室もある。		馴染みのある物や好んでいた物などの持込を、家族に呼びかけていきたい。
84	換気・空調の配慮 気のなるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	リビングや廊下、居室などは掃除時、状況に合わせて窓を開けて喚起に努めている。トイレは常時換気扇をまわし臭いがこもらないようにしている。冷暖房は温度と風向きに注意し入居者に確認して使用している。(冷房は27度)		今後も継続していく。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	園内は全てバリアフリー、廊下やトイレ、浴室には手すりを設置。1階のみではあるが、和室の居室があり一人ひとりの身体機能を生かして生活が送れるようにしている。エレベーターも扉の開閉が緩やかになっており、可能な入居者は自由に使っている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	家族の確認のうえ居室に名前を表示、色の違う表札、ドアノブに好みの目印、トイレや浴室の表示をしている。能力に応じて居室タンスに、種別ごとに表示の工夫をしている。		一人ひとりの状態に応じて、今後も工夫していきたい。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関前が広いので納涼祭などの行事や、日向ぼっこや気分を変えてお茶、体操、夕涼みなどに活用している。園の周りを散歩道として歩けるのでリハビリや気分転換に活用している。リビング南側にはゴーヤのカーテンがあり、収穫や観賞を楽しんでいる。		今後も継続して活用していきたい。
項目番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)		
サービスの成果に関する項目				
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない		
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない		
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

住宅地と田園に囲まれた環境の中で、ゆったりと安心して生活して頂けるように日々支援しています。特に食事には旬の自家製野菜を豊富に使い、会話をしながら楽しく調理、時間をかけて会食しています。また、毎月の行事は、地域とのふれあい、個別支援、季節感を感じる外出など、利用者の声を大切しながら工夫しています。特に今年はこれまで習慣としていたことや行きたかったところなど、一人ひとり個別支援に取り組んでいます。またグリーンカーテンにも(ゴーヤ)挑戦、緑いっぱいのもとも涼しげな空間と、成長ぶりを皆さんで楽しんでます。